

# 柏市立土小学校 いじめ防止基本方針

平成26年2月策定

令和6年9月改訂

## 1 目的

本方針は、「いじめ防止対策推進法」（平成25年6月28日公布。9月28日施行）の施行及び「いじめの防止等のための基本的な方針」（平成29年3月16日改正）の策定に伴い、人権尊重の理念に基づき、柏市立土小学校の全ての児童が充実した学校生活を送ることができるように「いじめ問題」に速やかに対応し、解消することを目的に策定するものである。

## 2 「いじめ」の定義（文部科学省）

児童・生徒に対して、当該児童・生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童・生徒と一定の人間関係にある他の児童・生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童・生徒が心身の苦痛を感じているもの

## 3 基本的な方針

「いじめ」を重大な人権侵害としてとらえ、「いじめ」は人間として絶対に許されない。また、どこの学校でも、どの学年・学級でも、どの子どもにも起こりうるという認識に立ち、早期発見に努め、解決に向けて迅速かつ有効な対応、継続的な支援を行う。

- (1) 「いじめは、絶対に許されない。」という強い認識を持たせる指導を徹底する。
- (2) いじめの未然防止、早期発見、早期対応と組織的な対応を徹底する。
- (3) いじめに関わった児童への心のケアを徹底する。
- (4) 多角的にいじめをとらえ、関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となった取り組みを重視する。

## 4 いじめ防止対策の整備

### (1) 「いじめ防止対策校内委員会」の設置

いじめの早期発見・早期対応、早期解決の取り組みを行うための組織として、「いじめ防止対策校内委員会」を設置する。

校長，教頭，教務，担任，養護教諭，学年主任，生徒指導主任，  
教育相談担当，特別支援コーディネーター，スクールカウンセラー 他

### (2) 「いじめ」の相談窓口の設置

いじめは、早期発見・早期対応が求められる。学級担任をはじめ相談しやすい教職員への連絡・相談は勿論、具体的な窓口を決め、いじめの早期発見に努める。

## 5 いじめ未然防止の取り組み

- (1) 道徳教育や行事を充実させる中で、生命や個性の尊重・思いやり・協調性・公平公正・規範意識などの涵養を図る。
- (2) 生徒指導の機能（自己決定の場を設け、自己存在感を与え、共感的な人間関係を結ぶ）を生かした「わかる授業」の展開を図り、児童一人一人に達成感や自己有用感を与える。
- (3) 各種研修を積極的に活用して教員の意識改革や指導力の向上を図り、日々の教育活動の中で分かりやすい授業や確かな児童理解に基づいた生徒指導と相談活動を実践する。
- (4) 児童自らがいじめの問題について学び、そうした問題を児童自身が主体的に考え、児童自身がいじめの防止を訴えるような取り組みを推進する。

## 6 いじめ早期発見への取り組み

- (1) 全職員で子どもの言動を観察する。
- (2) 児童に対する定期的な調査を行う。調査結果をもとに個別面談を実施し、悩みを具体的に把握する。調査に要したアンケート等は、児童の個人情報として、校内で適正期間（5年間）保管をする。なお、アンケート調査結果は担任だけでなく、複数の教員の目でチェックする。
- (3) 養護教諭やスクールカウンセラーなど、児童が気軽に相談できる窓口を設置する。
- (4) 生徒指導部会(Bプロジェクト)などの教職員の会議で情報交換を密に行う。

## 7 いじめ早期対応の取り組み

- (1) いじめの事実関係を把握し、いじめに関わった児童の安全確保と心のケアを徹底する。  
児童の気持ちに寄り添い、平穏な学校生活を送れるように、心身と関係性の修復及び再発防止に努める。
- (2) いじめの事実に対し、毅然と対応する。  
「いじめは絶対に許されない。」と毅然と対応する。人格ではなく行動そのものに対して指導する。関係児童から聞きとりを行い、その後の様子も観察する。
- (3) 保護者への連絡と支援・助言を行う。  
いじめを認知した場合には、保護者に事実関係を伝え、いじめを受けた児童の安全の確保と心のケアやその保護者に対する支援やいじめを行った児童の保護者に対する助言を行う。また、事実確認により判明したいじめ事案に関する情報を保護者に連絡する。
- (4) ネットトラブルに対して、誠意を持って対応する。ただし、当事者（書き込みされた被害者、書き込んだ加害者、場を提供しているサービス業者）ではないので、削除依頼や発信者情報開示の代行を行うことはできない。
- (5) 配慮を要する児童生徒への対応（柏市いじめ基本方針 R5年度改訂版による）
  - ①外国にルーツのある児童生徒の対応
  - ②家庭環境等に特別な事情がある児童生徒の対応
  - ③性別違和や性的指向・性自認に関わる児童生徒への理解と対応

## 9 重大事態への対応

いじめ防止対策推進法第28条は、いじめにより、児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき、及びいじめにより児童生徒が相当期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるときを**重大事態**として、速やかな対処を求めています。その判断基準の事例として以下のように示しています。

いじめの重大事態の調査に関するガイドライン：文部科学省H29.3抜粋

- ① 児童生徒が自殺を企画した場合
  - ・自殺を企画したが軽傷で済んだ。
- ② 心身に重大な被害を負った場合
  - ・暴行を受け、骨折した。・投げ飛ばされて脳震盪となった。
- ③ 金品等に重大な被害を被った場合
  - ・複数の生徒から金品を強要され、総額1万円を渡した。
- ④ 精神性の疾患を発症した場合
  - ・心的外傷ストレス障害と診断された。
- ⑤ いじめにより転学等を余儀なくされた場合
  - ・欠席が続き、（重大事態の目安である30日には達していない）当該校へは復帰ができないと判断し、転学（退学等も含む）した。

- (1) 校長が重大事態と判断した場合には、いじめ防止対策推進法に基づき直ちに関係諸機関への報告とともに、関係諸機関と連携して被害児童の安全確保と事実確認・いじめの解消に向けて組織的に対応する。また、速やかに教育委員会に報告する。
- (2) 重大ないじめ事案や児童の生命身体に重大な被害が生じる恐れがある犯罪行為と認められた場合には、法第23条第6項に基づき、直ちに警察署安全課および千葉県柏児童相談所に相談・通報を行い、支援を要請する。関係機関と連携をしながら、いじめに関わった児童への指導を継続する。（柏市いじめ基本方針より）

## 10 改正

いじめ防止基本方針については、法の施行状況を確認しながら見直し改善していきます。